

## 第2学年 道徳学習指導案

### 1 主題構成表

主題名 公正・公平

資料名 張君の笑顔

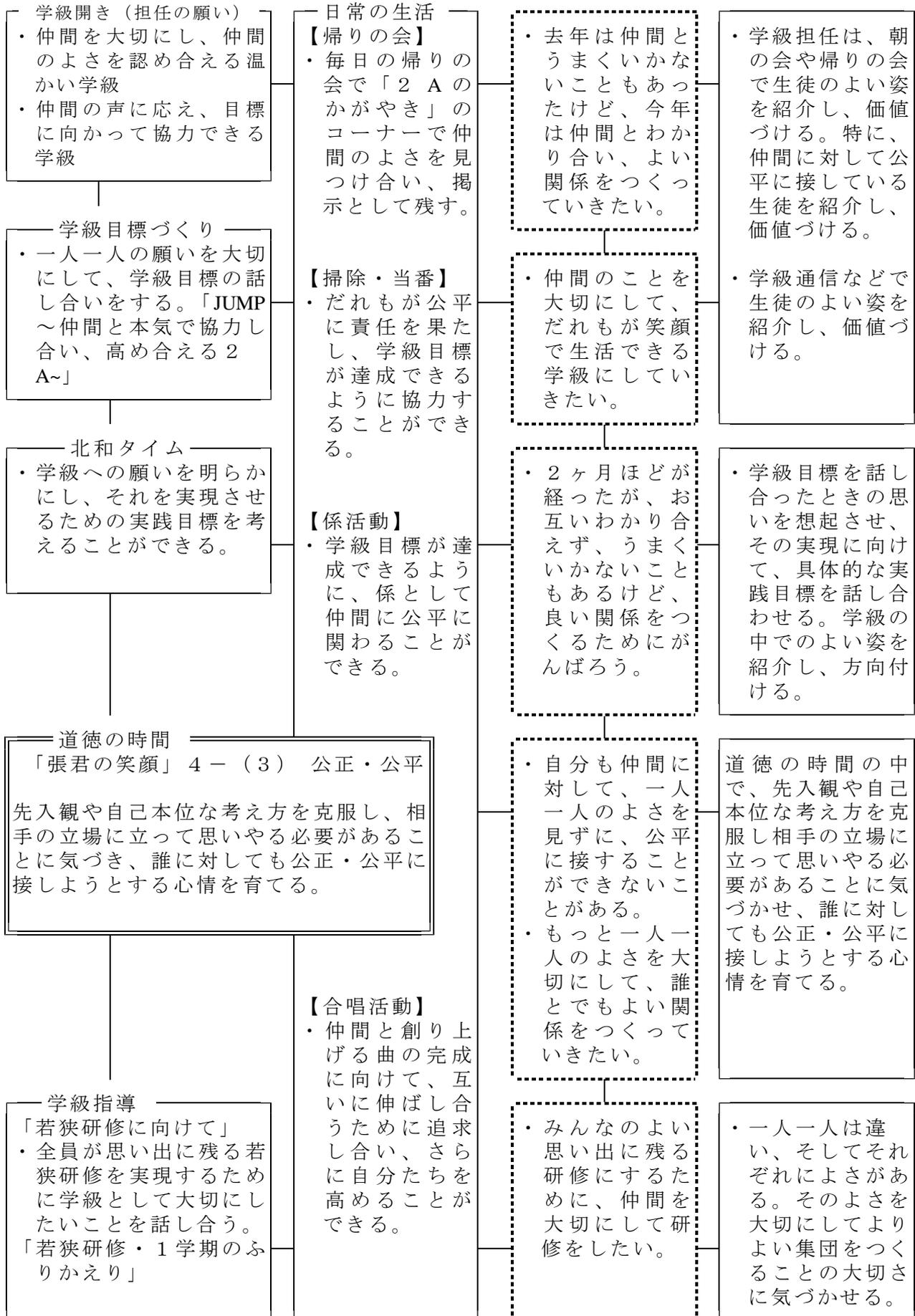
<p>■内容項目 4－(3) だれに対しても公正・公平に接することの大切さについて自覚を深め、差別や偏見のない社会の実現に努めようとする心を育てる。</p>	<p>■価値の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人は、よりよく生きたいという願いをもっており、その願いが差別や偏見のない社会にしたいという要求につながる。しかし、先入観やまわりの意見に左右されたり、自己中心的な考えに陥ったりすることによって公正・公平にできないことがある。</li> <li>・相手の気持ちによりそい、差別や偏見に立ち向かうすばらしさに気づき、自らも行動していこうと決意することが、差別や偏見をなくすことにつながる。公正・公平な社会をつくるために進んで行動するしようとする心情を育てることが大切である。</li> </ul>	<p>■資料の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主人公の孝文は、同級生の雄一をあだ名で呼ばず、公正な人間であると思っていた。</li> <li>・孝文のクラスに張順という転入生がやって来る。孝文は、英語圏の人なら英語を使うチャンスだったのにとがっかりする。</li> <li>・友人で生徒会役員の和樹は、張順と仲良くなって中国や日本のことを話すうちに一人ひとりを大切にすることに気づく。</li> <li>・和樹の話を知り、和樹と張順の関係を見たりして、孝文も自分の偏見や今後の自分を考える。</li> </ul>
<p>■内容項目から見た生徒の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰に対しても優しく公平に接することができる生徒がいる一方、仲間に対して公平に接することができない生徒もいる。</li> <li>・仲間のよさに目を向けられず決めつけた見方をしがちな生徒がいる。</li> </ul> <p>■意識の要因</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校や前学年での関わりから、仲間の新たながんばりやよさに目を向けられない。</li> <li>・まわりとの人間関係から、自分の判断ができず、まわりの仲のよい生徒の考えに同調してしまう。</li> </ul>		
<p>■ねらい</p> <p>先入観や自己本位な考え方を克服し、相手の立場に立って思いやる必要があることに気づき、誰に対しても公正・公平に接しようとする心情を育てる。</p>		
<p>■展開の構想</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・張順が転校してきたとき、張順に対して公正に接することができなかった孝文の気持ちに共感させる。</li> <li>・和樹と張が仲良くしている様子を見たり、和樹の話を知り、自分を見つめ直す孝文の気持ちを考えさせる。</li> <li>・張の笑顔を見て、孝文がどんなことに気づいたか考えさせ、価値に迫る。</li> <li>・展開後段では、①わたしと同じような経験がないか、②その時の自分の気持ちはどうか、③授業を終えて、そのことをどう思うかという手順で振り返らせる。</li> </ul>	<p>■基本発問（◎中心発問）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○張順が転校してきたときの孝文はどんな気持ちだったろう。</li> <li>○和樹と張が仲良くしている様子を見たり、和樹の話を知り、自分を見つめ直すとき、孝文はどんな気持ちだったろう。</li> <li>◎張の笑顔を見て、孝文はどんなことに気づいたろう。</li> <li>○主人公と同じような気持ちになったことはないだろうか。そのときは、どんな気持ちだったか。また、授業を終えて、その自分をどう思うか。</li> </ul>	

### 3 道徳の時間（本時）と他の教育活動との関連

#### <場の内容・ねらい>

#### <生徒の意識>

#### <指導・援助>



2 学習指導過程

	基本発問と予想される生徒の反応	援助・援助
導入	<p>◇相手の立場に立てず、自分本位な接し方をしてしまった経験はないだろうか。 (接していない。) (あだ名や呼び捨てがある。) (仲間をばかにしたような言葉や暴言がある。) (仲のいい子だと許せるけど、仲がよくないと腹が立つ。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「公正公平」の観点で、自分の体験や行為を振り返ることで、価値への方向付けを図る。</li> <li>・事前にアンケートをとって、生徒の実態をつかみ、意図的指名をする。</li> </ul>
展開	<p>◇資料提示（教師範読）をする。 ○張が転校してきたときの孝文はどんな気持ちだったろう。 ・英語が使えないから興味がない。 ・英語を試せないからがっかりだ。 ・中国人か。あまり興味がない。欧米の人だったらよかったのに。 ○和樹と張が仲良くしている様子を見たり和樹の話の聞いたりして、孝文はどんな気持ちだったろう。 ・自分は張を無視していたのに、和樹は張のことをわかって仲良くしている。自分はひどい人間だった。 ・自分は英語圏の人じゃないとがっかりしていたけど、それは自分勝手な考えだった。 ・張にはいろんなよさがある。自分はそれに見向きもしていなかった。 ・どこの国の人なんて関係ない。張君のことをしっかり見ていきたい。 ◎張の笑顔を見て、孝文はどんなことに気づいただろう。 ・自分は、自分の都合ばかり考えていたけど、相手の気持ちを考えて自分から声をかけることが大切だ。 ・相手のことをわかろうと努力することが大切なんだ。 ・みんな違いがあるけど、みんなよさがある。それを見つけて、大切にしていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を読みながら、2カ所に線を引くように指導する。</li> <li>・絵や範読によって資料の把握をしやすくする。</li> <li>・張順が転校してきたときの孝文の気持ちに共感させる。</li> <li>・発問後、考える時間を1～2分とる。</li> <li>・和樹と張が仲良くしている様子を見たり、和樹の話の聞いたりしたときの孝文の気持ちを考えさせる。</li> <li>・深まりを意図して、意見を分類する。 ＜自己のふりかえり＞ ＜これからの目標・決意＞</li> <li>・張の笑顔に着目させることで、和樹の張に対する関わり方のすばらしさに気づかせる。</li> <li>・中国人ということで偏見をもっていない。</li> <li>・張のことを気にかけて、自分から話しかけた。</li> <li>・自分の都合を乗り越えて、張や中国のよさを積極的にわかろうとしている。</li> <li>・仲間として、一人一人をわかろうとしている。</li> </ul>
前段階	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>【深めの発問】</b> 和樹の張に対する関わり方のすばらしさはどんなところだろう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の価値について理解し、考えを深めることができる。</li> </ul>
展開後段	<p>○資料の孝文のような「仲間と自分の都合でつきあったり、仲間と公平に関われなかった」経験、そのときの気持ちや今の気持ちを書きましょう。 ・ふりかえりをノートに書かせ、机間指導をして、指名をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の授業を終え、より高められた価値から、今までの自分を見つめることができる。</li> <li>・変容の大きい生徒に話させ、多くの生徒が自分のふりかえりをできるようにする。</li> </ul>
終末	<p>○教師の説話 ・教師の経験から、公正公平に接することの難しさや、それを乗り越えたときに生まれる人間関係を理解させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の飾らない経験を語り、これからの方向を示す。</li> </ul>